

高度外国人材の活躍推進

～2025年度活動報告～



【第8回あいち外国人材適正受入れ・共生推進協議会資料】



- ◆名古屋大学の外国人留学生への本音ヒアリング
- ◆グローバル愛知共催「留学生と企業との交流会」
- ◆名古屋大学共催「留学生と企業との交流会」



名古屋大学留学生からの本音ヒアリング

5月23日、名古屋大学経済学部教室にて、同大の留学生(英語プログラム)8名(6か国の学部・大学院生)から日本企業への就職についての本音をヒアリングした。

- ◆参加者:名古屋大学/土井教授、中部経済連合会/国際部3名、留学生8名、
- ◆テーマ:「日本企業の魅力は?」「採用基準の日本語能力はなぜ厳しい?」「業種でキャリアプランに違いはあるか?」「日本企業の報酬レベルは?」「業種間の報酬格差?」「留学生が日本企業で働く上での利点は何か?」等

今回の留学生は英語プログラムの国際的な活躍を目指す学生で、日本企業の報酬レベルや業種によるキャリアプランの違いに関する議論が多かった。特に、報酬レベルにおいて、業種間や海外企業との差に関心が高いことが分かった。





グローバル愛知共催/留学生と企業との交流会

6月6日、中小企業の人材不足解消および外国人留学生の就職率向上に取り組む非営利団体「一般社団法人グローバル愛知」と共催で、外国人留学生と企業との相互理解促進を目的とした交流会をナゴヤイノベーションズガレージで開催した。この活動は2022年度から始めており、今回は16大学などの留学生25名(12の国・地域)および企業8社・10名の計35名が参加した。

交流会では、経営者の視点を疑似体験できるビジネスゲームを通じて、交流を深めつつ就職活動における心構えを学ぶワークショップのほか、留学生の日本企業就職における留意点や、企業が外国人留学生を採用した際の留意点についてのセミナーを開いた。その後、企業参加者が自社の雰囲気を紹介し、留学生が日本企業で働くことに関する疑問を尋ねる交流パートを設け、双方の魅力を様々な角度で知ってもらうためのプログラムを実施した。交流会は熱く盛り上がり、予定していたプログラムが終了した後も殆どの参加者が居残り意見交換を続けていた。参加者からは「楽しかった。日本企業や留学生についてよく学べた」との好評を得た。





名古屋大学共催/留学生と企業との交流会

8月5日、名古屋大学と共催で、学生と企業の相互理解の促進を目的とした交流会を名古屋大学で開催した。4年目となる今回は、名古屋大学の留学生28名(10ヶ国)および企業8社・15名(外国人社員を含む)の合計43名が参加した。

はじめに、ビジネスシミュレーションゲームを通じて、学生と社会人がチームとなり、戦略を話し合いながら、他チームと交渉することで互いの距離を縮めるとともに、コミュニケーションと企業から見た人材の重要性を学んだ。次に名古屋大学キャリアサポートセンター長の土井康裕教授から「異文化理解」をテーマとするセミナーが行われ、異文化交流での相互理解のあり方について認識を深めた。その後、留学生と企業との交流パートに移り、「企業の雰囲気」「企業・学生の期待値」など、さまざまなテーマを巡って日本企業で働くことに関する質疑応答や意見交換が積極的に行われた。

参加者からは「今後グローバル人材を拡充するために貴重な機会を得られた」「高度外国人材が日本国内で働ける十分な能力を有することが分かった」(企業)や、「日本企業について深く学ぶことができ、留学生が働ける機会が十分あることを知った」「今まで認識していた日本企業のイメージが180度変わった」(学生)などの感想が寄せられた。



◆産官連携による地域日本語教室支援事業

- (1) ボランティア人材研修および日本語教室とのマッチング
- (2) 日本語教室ボランティア人材向けフォローアップ研修
- (3) 日本の伝統文化および職業観を学ぶ教育支援活動



(1) ボランティア人材研修および日本語教室とのマッチング

11月8日、外国にルーツを持つ子どもを対象とした日本語教室とボランティア活動に関心のある企業人をつなぐ「研修およびマッチングイベント」を名古屋市内で開催した。6回目となる今回はアイシン、愛知製鋼、ジェイテクト、中部電力、中部電力ミライズ、デンソー、豊田自動織機、トヨタ車体、豊田合成に勤務する従業員の有志約30名が参加した。

本活動は、2022年度から、愛知県経営者協会や愛知県などと産官連携事業として取り組んでいる。文部科学省の調査によると、2023年5月現在、外国にルーツを持つ日本語指導が必要な児童生徒数のおよそ4割が中部5県に暮らしており、この内、愛知県は最多(13,984人)となっている。一方で、受け皿となる日本語教室は運営や講師役を担うボランティア人材の高齢化や学習場所の不足などに直面しており、子どもの就学・進学や社会進出に向けた対策が急務となっている。



(2) 日本語教室ボランティア人材向けフォローアップ研修

2026年2月1日、外国にルーツを持つ子どもたちを対象とした日本語教室においてボランティア活動を行っている企業人などを対象とした「フォローアップ研修」を名古屋市内にて開催した。

本研修では、生活面および学習面で困難を抱える子どもたちの支援に取り組むNPO法人アジャストの代表理事である清長 豊氏、ならびに同法人が運営する外国にルーツを持つ中学生向け学習支援教室の代表である代表・清長 摩知子氏を講師に迎え、「子どもたちとの信頼関係の築き方」をテーマに講演いただいた。

講演では、外国にルーツを持つ児童生徒が直面する課題は多様であることを踏まえ、子ども一人ひとりに向き合う際に大切な視点として、「子どもへの共感」「信頼関係構築に向けた大人の姿勢」「子どもの不安を軽減する関わり」「信頼関係を育む大人の具体的行動」の四つの観点から、実際の支援事例を交えながら解説いただいた。

また、参加者同士が日頃の活動の中で感じている課題や悩みを共有するワークショップも行い、意見交換を通じて理解を深めた。参加者それぞれが自身の活動を振り返るとともに、今後の支援活動に生かすための知識や支援スキルの向上につながる、有意義な研修の機会となった。



(3) 日本の伝統文化および職業観を学ぶ教育支援活動

7月6日、外国にルーツを持つ子ども達とその保護者に日本の文化や職業を知ってもらうことを目的に、大相撲・安治川部屋に所属する力士の稽古見学を愛知学院大学・日進キャンパスで実施した。

本イベントは本会をはじめとする「産官連携による地域日本語教室支援事業」の一環として実施。安治川部屋は「感謝する姿勢」「学び続ける意欲」「社会貢献する心」という三本柱のもと、力士育成に取り組んでおり、本会の地域日本語教室(※)支援活動の趣旨をご理解いただき実現した。同部屋にはウクライナ出身の安青錦(あおにしき)関や、ブラジルにルーツを持つ安強羅(あごうら)さんなどが所属している。

※地域日本語教室とは、地域住民が同じ地域で暮らす外国人住民の生活支援を目的に、草の根の活動として発生・発展してきたもの。子ども向けの地域日本語教室では、日本の学校生活に必要な日本語や学習内容の補完を通じて、外国にルーツを持つ児童・生徒が地域社会に適應できるよう支援を行っている。

